



お茶の京都

お茶の京都 木津川市 マスタープラン

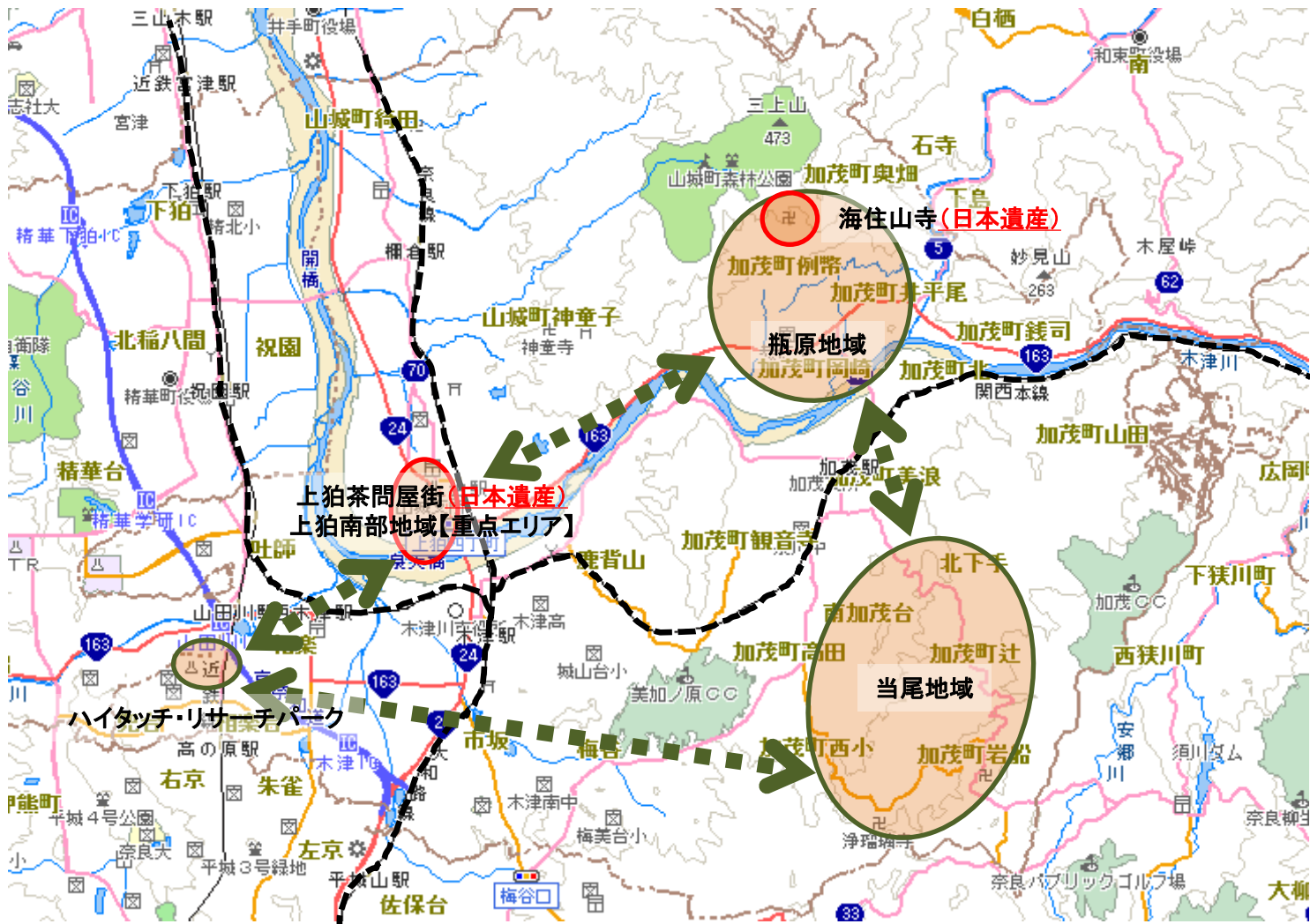
木津川市実践者協議会

平成27年12月



お茶の京都

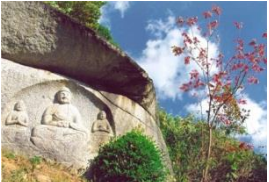
1 戦略的な交流拠点のエリア



上狛茶問屋街



海住山寺



当尾の石仏



ヒタチ・リサーチパーク 2

【「お茶の京都」構想 重点的に整備を行う戦略的な交流拠点エリア】
上狛地区を重点エリアとして、当尾・瓶原・ヒタチ・リサーチパークをつなぐ環



2 戦略的な交流拠点づくりの基本方針

●背景

木津川市には、木津川の水運を利用した交通の結節点である地の利を活かした茶問屋街が形成されています。

茶は、室町時代には栽培が始まっていましたが、江戸時代末の神戸港 開港による茶の輸出により、山城地域において飛躍的に増大し、上粕には各地で摘まれた茶が運ばれ集積し、茶商の手により加工精製され、木津川の水運を利用し、神戸港から世界へ輸出されました。

大正2年の茶商連名表には115軒の屋号と名前が書いており、現在も約40軒が茶商を営んでいます。



●コンセプト

宇治茶生産の多様な景観を形成する木津川市の特徴として、山城地域の茶の集積地(=世界・全国へ良品の発信拠点)であることと、宇治茶ブランドを支えてきた、茶葉の「目利きのプロ」が集まっていることが挙げられます。

また木津川は、茶をはじめとした物資だけでなく、人も含めた交流によって国内外とを結ぶ大動脈であり、都や社寺の造営に木津川の水運が活用されるなど、地域の歴史を千年以上にわたって刻んできています。

このような歴史の中で、お茶をはじめとした地域資源の価値を実感し、地域力を高めていくなかで、現代の拠点づくりを目指しながら賑わいを創出するとともに、地域価値の向上・保全につなげていくものです。

また、木津川の水運により育まれた、点在する歴史的資源をつなぎ、まずは市内のネットワーク化を図り、さらに周辺部との広域連携につなげ、相乗的な効果が生まれるよう、木津川市及び日本茶文化への興味を掘り起し、歴史的・文化的な価値への実感・認識を深めることを目指します。

京 都



奈 良

(テーマ)
上粕地区(茶問屋街)を重点エリアとして、
当尾・瓶原・ハイタッチ・リサーチパークをつなぐ交流の環



2 戦略的な交流拠点づくりの基本方針

●基本方針

- 1: 歴史・文化の保全・活用
 - (1-1) 歴史的文化的遺産の保全と活用
 - (1-2) 伝統的町並みや農山村集落景観の保全と活用
- 2: 歴史・文化・伝統を背景とした地域文化創造活動の促進
 - (2-1) 地域文化創造活動の育成・促進
 - (2-2) 水・緑・歴史のネットワークづくり
- 3: (3) 関西文化学術研究都市を活用した新たな地域産業の創造
- 4: 地域資源を活用した新しい地域産業創出システムの構築
 - (4-1) 安定した付加価値の高い農業の振興
 - (4-2) 観光交流産業や商工業の振興
- 5: 道路交通ネットワークの整備・充実
 - (5-1) 地域を結ぶ道路ネットワークの整備
 - (5-2) 地域公共交通ネットワークの充実

この基本方針による事業をきっかけに、茶文化の拠点である上狛茶問屋街を中心として、茶に親しめる環境を活かし、木津川の水運をはじめ歴史的にもつながりの深い市内各所への回遊性をもたらすことにより、域内における茶文化の価値の認識を高め、地域資源の情報だけでなく、地域で活躍している人たちが繋がり楽しめる賑わいの場づくりを行います。

その結果、地元住民だけでなく地域内外からの来訪者やサイクリスト等が、かつての物流拠点であった上狛地域(茶問屋街)から市内各所さらに広域的に回遊しながら楽しめる地域になることを目指します。

目指す姿

人が集まり 情報が集まる
 地元の人にとっても 来訪者にとっても
 「◎◎◎」のきっかけとなる場づくり

お茶の京都マスタープラン
イメージ

京都府
「お茶の京都」構想

- 宇治茶の価値の再発見、景観やお茶文化の維持・継承
- お茶の文化・魅力を発信する交流エリアの創出、ネットワーク化
- お茶産業のイノベーション創出
- お茶の文化、魅力の効果的なプロモーション・観光誘客の推進

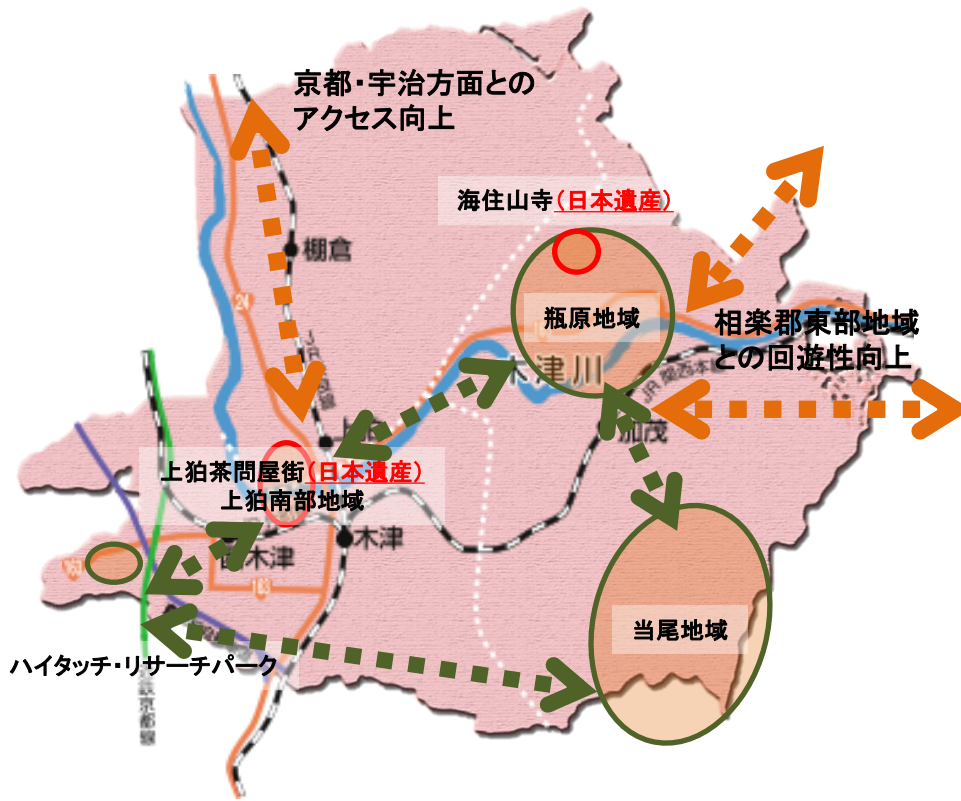
お茶の京都マスタープラン
ワークショップ等で
検討した内容

地域振興
観光振興
茶・商業振興 等

木津川市



3 戦略的交流拠点の目指す姿



【重点エリア】

●上粕地区

山城茶問屋街を中心とした茶文化による観光の推進と地域間交流の拠点づくりとして、市民や関係団体・機関とともに「地域との交流の環」「健康づくりの環」「サイクリングの環」の3つの環を繋げる「環の拠点」の創出に取り組みます。また空き家等の有効利用により地域の魅力向上を図ります。交流人口の拡大に向けては、これまでから観光地として人が訪れている、周辺地との回遊性を高める取組を進めていきます。

【回遊性を高める「環」づくり】

●当尾地域

先人から受けついできた歴史文化遺産を活用した回遊性の高い地域づくりを目指し、ウォーキング等を活かしつつ、当尾の郷会館(旧当尾小学校)を利活用し、地域住民が集って、当尾の魅力を発信する場のほか、市内外の都市住民との交流を創出する場など、民間活力を活用した地域課題等に取り組む地域の複合的な多機能拠点として活用していきます。

●瓶原地域

和束町でお茶を最初に植えたといわれる高僧「慈心上人」がいた、海住山寺(日本遺産)をはじめ、これまでから、公有化を図ってきている恭仁宮跡を中心として、憩いの場、観光スポット、歴史学習の場とした環境整備のほか、お茶の生産と体験・交流の場の整備等、お茶を活かした地域の振興を検討します。

●ハイタッチ・リサーチパーク

知の集積として活用するため、これらと連携した産業の活性化等、最先端の研究成果を活かした新産業・新事業の創出を支援します。

4 主な実施事業

1: 歴史・文化の保全・活用

(1-1) 歴史的文化的遺産の保全と活用

事業	実践者	時期	具体例
歴史資源などの保全・活用	市・府	短～長期	史跡等の整備・公開 解説サインの整備・維持 歴史学習等のレクリエーション空間としての環境整備 歴史講座等の実施

(1-2) 伝統的町並みや農山村集落景観の保全と活用

事業	実践者	時期	具体例
歴史的町並み等の保全・活用	民間・市・府	短～長期	伝統的町並みや農山村集落の景観の保全・活用策の検討
上狛茶問屋街等における空き家等の活用の検討	民間・市・府	中～長期	空き家等を活用した拠点づくり
市内外の人やサイクリストの交流の場づくり	民間・市・府	短～長期	環の拠点の整備 拠点施設での事業運営のための組織づくり 拠点施設の改修等整備 拠点機能の整備

2: 歴史・文化・伝統を背景とした地域文化創造活動の促進

(2-1) 地域文化創造活動の育成・促進

事業	実践者	時期	具体例
新たな魅力を創造する体験・イベント実施	民間・市・府	短～中期	歴史・文化、伝統を背景とした文化創造活動への支援

4 主な実施事業

(2-2) 水・緑・歴史のネットワークづくり

事業	実践者	時期	具体例
新たな魅力を発見・発信する事業の促進	民間・市・府	短～中期	木津川アートの開催 地域資源を活用した探訪ツアーの実施 ボランティアガイド等の育成
関連ネットワークの形成	民間・市・府	短～長期	歴史文化拠点等を結ぶ散策路等の企画・整備 散策道の環境維持、誘導サインの整備・維持

3: 関西文化学術研究都市を活用した新たな地域産業の創造

事業	実践者	時期	具体例
学研施設・研究機関等との連携	市・府	短～長期	企業立地や新産業創出への支援 学生を対象とした地域資源を活用したプロジェクトの実施

4: 地域資源を活用した新しい地域産業創出システムの構築

(4-1) 安定した付加価値の高い農業の振興

事業	実践者	時期	具体例
地域特性に応じた営農基盤づくり	市・府	短～長期	お茶をはじめ農産物のブランド化 有害獣害被害防止施設の設置支援 獣害等に強い農産物生産の支援 担い手への総合支援 地産地消の推進
地域内の産品を販売できる場づくり	民間・市・府	短～長期	農産物直売所の整備
お茶に関する情報発信(PR)	民間・市・府	短期	SNSを活用した情報発信
教育機関との連携や学校給食等における地産地消の推進	市・府	短期	お茶を使った給食メニューづくり 歴史文化遺産や研究施設から地域の特徴を学ぶ授業 (次頁に続く)



4 主な実施事業

事業	実践者	時期	具体例
茶業振興の推進	市・府	短～長期	茶生産者の育成を図るための茶品評会出品への支援 「宇治茶の郷づくり協議会」との連携

(4-2) 観光交流産業や商工業の振興

事業	実践者	時期	具体例
お茶など地域特産の普及等を目的としたイベント実施	民間・市・府	短期	特産品PRのための木津川市フェアの開催 茶問屋街を活用したウォーキングイベント お茶の淹れ方講座など体験型学習会の開催 山城郷土資料館等での茶文化に関する展示等
回遊性を高める仕掛けづくり	民間・市・府	短～長期	広域的なサイクルマップの作成 サイクルスタンドの設置 紙媒体やSNSを活用した観光情報PR
地域産物を活用した商品開発(ご当地グルメ)や提供の場づくり	民間・市・府	短～中期	地産地消推進の認定店(カフェ等)づくり お茶をテーマにした特産品フェアの開催

5: 道路交通ネットワークの整備・充実

(5-1) 地域を結ぶ道路ネットワークの整備

事業	実践者	時期	具体例
広域道路網・地域間循環道路の整備	民間・市・府	中～長期	日本遺産認定箇所への誘導サイン等アクセス改善 国道163号の拡幅等整備促進 府道天理加茂木津線の改良整備 府道上狛城陽線の整備



4 主な実施事業

(5-2) 地域公共交通ネットワークの充実

事業	実践者	時期	具体例
広域的回遊づくりの構築: 市外の周辺地域の特性を活かした観光ルートの造成	民間・市・府	短～長期	日本遺産をコースに入れたバス運行 非電化区間での例えばSL等イベント列車の運行 京都方面とのアクセス強化(JR奈良線整備)
地域公共交通ネットワークの充実	民間・市・府	短～中期	レンタサイクルの導入 回遊性を高めるバス路線の維持 利用者目線の時刻表等の作成

- 1: 歴史・文化の保全・活用
- 2: 歴史・文化・伝統を背景とした地域文化創造活動の促進
- 3: 関西文化学術研究都市を活用した新たな地域産業の創造
- 4: 地域資源を活用した新しい地域産業創出システムの構築
- 5: 道路交通ネットワークの整備・充実

「◎◎◎」のきっかけとなる場づくり

- ▼ 茶問屋街としての茶業をはじめとした地域振興
- ▼ 人がつながる賑わいを生み出す場づくり
- ▼ 歴史文化遺産等を活用した回遊づくり



(リーディングプロジェクト) 時期: 短～中期 実践者: 民間・市・府

リヤカーゴのような、木津川市らしい〔可動式〕の〔拠点づくり〕

＝賑わいを創出することによる地域内外の交流人口の増加

＝お茶を含めチャレンジショップ的な活用も可能な地域振興

- どこでも・どこへでも
- 幅広い活用が可能
- PRなどの話題性が高い
- 新規ビジネスへの発展



(参考) 尾道 リヤカーゴ



5 地域創生に向けた取組との関連 等

木津川市では、平成27年10月に「木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

戦略スローガン「子ども育マチ・きづがわいい」

戦略では、若者を中心とした人口流出の抑制と木津川市への流入促進、雇用の確保、出産・子育て環境の整備、地域の連携・交流の促進といった木津川市の課題を踏まえ、一人でも多くの方に「木津川市に住みたい。住み続けたい。住んでよかった」と実感頂ける魅力あるまちづくりを進めるため、3つの姿勢の下、6つの基本目標を定めています。

このうちの一つ「小さな拠点を活用した個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実」においては、木津川市が取り組む「地域との交流の環」「健康づくりの環」「サイクリングの環」の3つの環をつなげる「環の拠点」創出に向けた施策が位置付けされており、「お茶の京都」事業と連動した取組を進めていきます。また「交流人口の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開」についても位置付けを行っていることから、お茶の京都構想構成団体等との広域連携事業を推進します。

●総合戦略における重要業績評価指数(KPI)

環の拠点来場者数 H26現況値 0人 → H31目標値 10,000人

(参考)3つの姿勢

●姿勢1 誰もが「住みたい」と思えるまち

歴史・文化・自然豊かで良質な住環境や学研都市の最先端技術が共存し、鉄道・道路などの多様な交通利便性を兼ね備えるなど、魅力ある「住みたいまち」の実現による移住・定住の促進を目指します。

●姿勢2 誰もが「住み続けたい」と思えるまち

若い世代、とりわけ子育て世代のために、仕事と家庭の両立がかなう環境づくりや、学研都市の企業集積、都市近郊農業の振興・活性化による安定した市内における雇用確保を実現し、「住み続けたい」まちづくりを推進します。

●姿勢3 誰もが「住んでよかった」と思えるまち

地域と、地域や市外との交流、また、新しく移り住んできた人同士や、既存住民との交流などを通して、地域に対する理解や愛着、誇りを醸成し、「住んでよかった」と思えるまちづくりを推進します。